

拝啓 今年も早や9月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。最近は何ばかり多く、非常に不純な夏だったと思います。そろそろ秋らしい日がやってくるのでしょうか。

今回は、内村鑑三先生の『統一日一生』からの引用の6回目です。

内村鑑三先生は、聖霊を実に豊に受けられた方だと思えます。パウロも同じように聖霊が降り注がれた方だったと思えます。

小西先生の特別説教を本にまとめようとして編集作業を行っています。その最後に、昭和38年のクリスマスの日の説教「ロマ書大観」を入れるつもりですが、その時小西先生は大きな図を壁に貼り説教されました。その図は、広げた新聞紙の2倍の大きさがありましたが、このたびコピー店で、A4に縮小しました。その図と以前佐生さんに書き写してもらった図とを添付します。私はこの図は、キリスト教とはいかなる宗教か、奥義を受けるにはどうすればよいかということをもとめている壮大な図のように思います。十字架の贖いは奥義、信望愛の、信とは受けること、そのためには称名、望とは復活すること、愛とは目の前の義務を果たすこと。皆さんもどうぞこの小西先生の絵を見ながら考えてみてください。

9月10日(金)は、学士会館の夕食会講演会で、ノーベル賞を受賞された大村智先生のご生涯についての講演を聞きました。実に有益で楽しい講演でした。翌日、オスラー協会の総会があり、日野原先生の秘書の佐藤玖子さんとお会いし、日経新聞に載っていた大村先生の「私の履歴書」の切り抜きを持っている、と言って送っていただきました。それで講演内容が正確に理解できました。

9月12日から14日まで、去年の心臓ステント手術の1年後経過観察で検査入院しました。無事でした。その入院の際、小西先生の特別説教集「わが主イエスよ一恵心流キリスト教説教集」の原稿を持ち込み、訂正をしたら、はかどりました。12月には出版したいと思っています。

9月17日は、童謡唱歌の会で、特にフォスターの歌を歌いました。佐生さんから「Old Black Joe」を聞くと、身につまされるというのを聞きして、歌って見たい気になっていました。

9月22日は、高校同級生の吉田嶽彦君のお嬢さん二人がピアノとバイオリンで演奏する「音はともだち」という楽しい音楽会に行き、感動しました。

この一月、いろいろ感動することの多い一月でした。

季節の変わり目、皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。

敬具

平成28年9月23日

山口周三

エンカウターの読者各位